

令和5年度国立赤城青少年交流の家教育事業

「あかぎ無限大キャンプ（事後キャンプ）」

1. 趣旨

参加者にキャンプをやり遂げたという達成感を味わわせるとともに、自身の変化や成長を見つめる機会とする。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和5年9月16日（土）～9月17日（日）【1泊2日】

(2) 参加者 22名

5年生男子（4名） 6年生男子（7名）

5年生女子（6名） 6年生女子（5名）

3. 企画運営のポイント

(1) 取組発表を行うことで、本キャンプ後の自身の成長や変化について参加者が把握できるよう配慮した。

(2) 既習のキャンプ技能を発揮する場として野外炊事を設定することにより、自身の成長を実感できるよう企画した。

4. 日程

	午 前	午 後	夜
9月16日 (土)	受付 開会式 本キャンプのふりかえり 昼食	チームミーティング 選択レクリエーション 眼の検査	野外炊事 たき火 ふりかえり
9月17日 (日)	朝のつどい 朝食 アドベンチャーラリー 取組発表準備	取組発表 ふりかえり アンケート 閉会式 解散	

5. 主な活動内容



「チームミーティング」



「選択レクリエーション」



「野外炊事」



「たき火」



「アドベンチャーラリー」



「取組発表」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果

満足	: 21人 (95.5%)	やや満足	: 1人 (4.5%)
やや不満	: 0人 (0%)	不満	: 0人 (0%)

(2) 参加者の声

- ・友達と仲良くできて満足することができた。
- ・レクや本キャンプでできなかったプログラムができてよかった。
- ・最後の野外炊事をみんなで楽しめてよかった。
- ・みんなで協力して今までで一番おいしいカレーをつくることができた。
- ・アドベンチャーラリーでは、グループのみんなで協力して課題をクリアすることができた。
- ・大変なこともあったけど、グループの団結力を最大限生かすことができた。
- ・取組発表では、キャンプで成長したことを発表できた。
- ・決意表明で発表したことを実行したいという気持ちになった。

(3) 成果

- ・取組発表を行うことで、本キャンプの決意表明後、学校生活や家庭生活でどのようなことをがんばっているか、自身をふりかえる機会となった。
- ・本キャンプで実施できなかったプログラムを実施することができ、参加者の満足度も高かった。
- ・野外炊事では、参加者からも「今までで一番おいしいカレーをつくることができた。」「野菜がうまく切れた。」など、既習の技能を生かして調理することができたという感想が多いことから、身に付けた技能を発揮する場として効果的だった。

(4) 課題

- ・事後キャンプを行う上で、参加者自身が成長を感じられるプログラム、キャンプをやり遂げたと実感できるような工夫をし、事後キャンプの趣旨に迫るような活動内容の設定が必要である。

担当：企画指導専門職 中山 太平